国立大学法人
福島大学
Fukushima University

プレス発表資料４

令和７年１月１５日

岩崎由美子ゼミによる西会津町でのこれまでの取り組みに対して特別感謝状が贈られました

岩崎由美子ゼミは、令和６年１１月１４日の福島県西会津町町制施行７０周年記念式典において、特別感謝状を受賞しました。西会津町をフィールドとして都市農村交流や大学生の視点を生かした農山村集落活性化の支援など永年にわたって取り組んできた功績に対するものです。

岩崎由美子ゼミは、令和６年１１月１４日の福島県西会津町町制施行７０周年記念式典において、特別感謝状を受賞しました。西会津町をフィールドとした都市農村交流や大学生の視点を生かした農山村集落活性化の支援など、永年にわたって取り組んできた功績に対するものです。

西会津町は、県西北部の新潟県境に位置し、飯豊連峰等１，０００ｍ級の山岳に囲まれ、山林８６％を占める山間地域です。町中心部から離れている奥川地区は、少子高齢化が進み、集落の共同作業や伝統文化の継承等が困難になりつつあります。

岩崎ゼミでは、２００６年の奥川地区出戸集落での調査研究活動を皮切りに、様々な調査研究・交流活動を継続し、主に以下のような成果をあげました。

■活動の成果

〇出戸集落の歴史や人々の生業や暮らしの変化を聞き取り、また、都会に他出した子どもや孫たちに集落への思いを書いていただき、『出戸集落コミュニティ史』をとりまとめ発刊しました。昔の冠婚葬祭時に作られていた「祝いの膳」「仏の膳」を復活させてレシピに残したことで、移住者が行うゲストハウス運営の参考資料としても活用されています。

〇福島県事業の「大学生の力を活用した地域復興支援活動」を活用し、福島県中町集落での全戸悉皆調査や人足体験活動を実施しました。住民を屋号で呼び合う慣習に興味をもった学生が、屋号看板で町並みを整備してはどうかというアイデアを出したところ、実際に屋号看板が設置されて屋号看板マップが作られました。さらに、「一日孫体験」を通じて住民の生活史を聞き書きし、その成果をもとに「奥川中町集落に生きて～自分史聞き書き集」を発刊するなど、集落活動と人々の地域での生き様を記録に残す活動を行いました。

〇過疎地域における郵便局の役割を検討するために、「大学生の視点を生かした農山村集落活性化と郵便局との連携可能性に関する調査」（一般社団法人通信研究会奨学寄付金）を実施し、奥川郵便局利用者や移住者、地域おこし協力隊員へのインタビュー調査を実施しました。さらに、郵便局の空きスペースを活用して「おくが輪・孫カフェ in 郵便局」を開催し、訪れてくださった地域住民や移住者の方々とともに、「奥川魅力マップ」（奥川の白地図を準備し、住民の意見を聞きながら作成）、「想い出のポスト」（住民の方々の郵便局の思い出を模造紙に書き出す）、「奥川新聞」（学生が作成した活動報告紙）の配布、「奥川写真館」（これまでの活動写真の展示）、「むらの保健室」（保健師に来て頂き血圧測定や健康相談）を行い、郵便局を拠点とした地域の交流の場を創出しました。

〇こうした活動を通して、西会津町の地域おこし協力隊員に着任した学生も誕生し（これまでに４名）、大学生や都市住民が集落の共同活動を体験する「人足体験ツアー」を発案するなど、関係人口の創出と拡大に関与しています。また、役場職員として勤務する卒業生や、卒業した後も奥川を訪問して歳の神の行事や雪灯籠づくりなどで懐かしい人々と交流を楽しむゼミＯＢ・ＯＧも多く、未来の地域づくり人材の育成・還流に大きく貢献しています。

〇奥川地区では、これらの活動を契機として空き家を活用したボランティア拠点「結」を整備するなど、大学生等外部人材がボランティアとして参加できるような集落支援の仕組みが作られました。現在は、首都圏の大学生も数多く奥川地区を訪れ、各々の専門分野を生かした様々な活性化の取り組みが展開されています。

人口減少が進む中で、集落を基礎とする地域社会の再生はきわめて重要な課題です。関係人口を含めた新たな地域自治をデザインする上で、大学生一人一人の思いやアクションは大きな意味をもつことから、ゼミとして今後も積極的に関わっていきたいと考えています。

（お問い合わせ先）
行政政策学類・教授　岩崎由美子
電　話：024-548-8295
メール：iwasaki@ads.fukushima-u.ac.jp

岩崎由美子ゼミが西会津町より特別感謝状を受賞しました

福島大学行政政策学類岩崎ゼミ

概要

　岩崎由美子ゼミ（行政政策学類）は、令和6年11月14日の福島県西会津町町制施行70周年記念式典において、特別感謝状を受賞しました。

　西会津町をフィールドとして都市農村交流や大学生の視点を生かした農山村集落活性化の支援など永年にわたって取り組んできた功績に対するものです。

西会津町奥川地区における岩崎ゼミの活動の歩み

2006年

・奥川地区出戸集落での中山間地域等直接支払の取り組みに関する調査

2007-2010年

- 出戸集落での「出戸集落コミュニティ史」の編集、出版

2009

- 奥川地域づくり会議との協働、林野庁山村再生支援事業「開墾で元気！」への参加

2014-

- 奥川健康マラソン運営ボランティアの開始、農家民宿体験、国際芸術村での交流

2017-

- 岩崎ゼミ卒業生から地域おこし協力隊員誕生
- 奥川地域人足や出戸岩屋祭り、新そば祭等への参加・支援

2018-

- 「福島県大学生の力を活用した集落復興支援事業」の採択
- 奥川中町集落での聞き取り調査、奥川人足体験ツアー、空き家拠点の清掃改修手伝い、七観音ウォーク、極入の大聖歓喜天祭礼等様々な取り組みへの参加、支援

2019年

- 奥川中町集落での「一日孫体験」、敬老会への参加・支援

2020

・コロナ禍のため、リモートでの講話、交流

・地域産業遺産の見学、「奥川魅力マップ」の作成

2021

- 「大学生の視点を生かした農山村集落活性化と郵便局との連携可能性に関する調査(1)―福島県西会津町奥川地区を事例に―」を実施
- 「奥川中町集落に生きて」（聞き書き集）発行
- ゼミOBOG交流（歳の神イベント、屋号看板めぐり）

2022

・ゼミで奥川訪問、地域おこし協力隊員と交流

- ゼミOBOG交流（歳の神イベント、雪ライトアップ）

2023

・「大学生の視点を生かした農山村集落活性化と郵便局との連携可能性に関する調査(2)―福島県西会津町奥川地区を事例に―」を実施、「おくが輪・孫カフェin 郵便局」の実施

・「奥川新聞」第１号発刊

2024

・七観音ｳｫｰｸ、極入大聖歓喜天祭礼、出戸岩屋まつりへの参加

・「奥川新聞」第２号発刊

2006年
奥川地区出戸集落での中山間地域等直接支払の取り組みに関する調査

２００６年度　社会計画論専門演習

福島県西会津町出戸集落
ゼミ調査合宿報告書

第１章　西会津町の概要　松井　俊鷹

第２章　出戸集落における地域づくりの歩み　松井　俊鷹・佐々木洸平　関場　祥太・齋藤　圭太

第３章　地域づくりに対する出戸集落の住民意識　佐藤　大輔

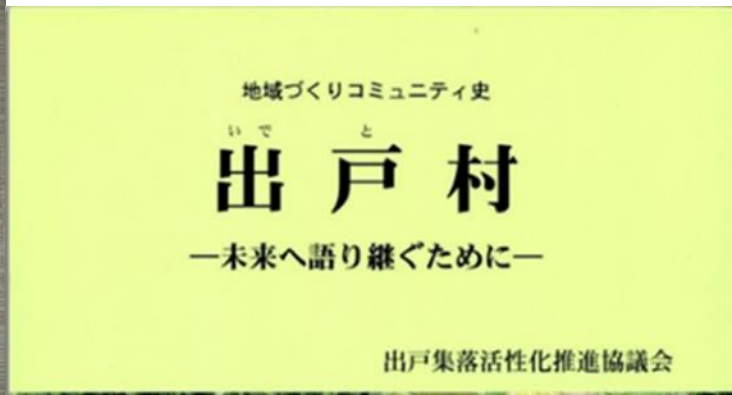
第４章　まとめと考察　齋藤　圭太・松井　俊鷹　関場　祥太・佐藤　大輔　佐々木洸平

第５章　出戸集落合宿の感想文　齋藤　圭太・佐々木洸平　佐藤　大輔・関場　祥太　松井　俊鷹・安藤　諭　木幡遼太郎・齊藤　元　杉山　健太・高橋　宏之

2007年３月　福島大学行政社会学部
岩崎由美子ゼミナール

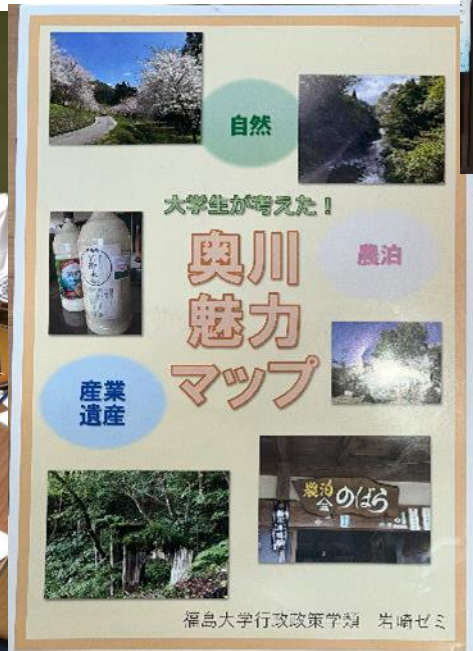
2007-2011

出戸集落での「出戸集落コミュニティ史」の聞き書き、伝統食の復活、本の編集、出版



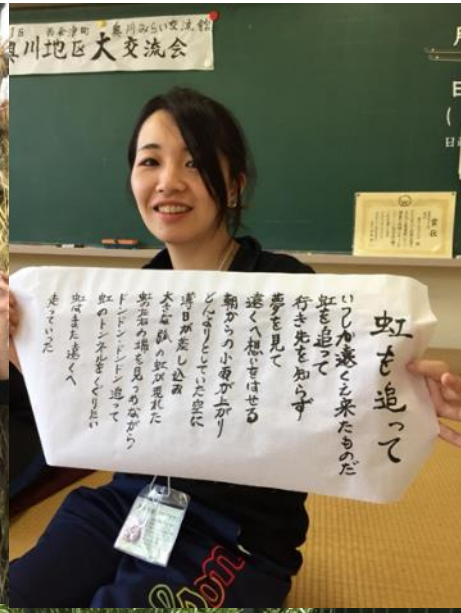
2018-
「福島県大学生の力を活用した集落復興支援事業」の採択、奥川中町集落での聞き取り調査

屋号看板
地域魅力マップ
聞き書き集の発行



出戸岩屋まつりへの参加、ボランティア

農都交流モニターツアー

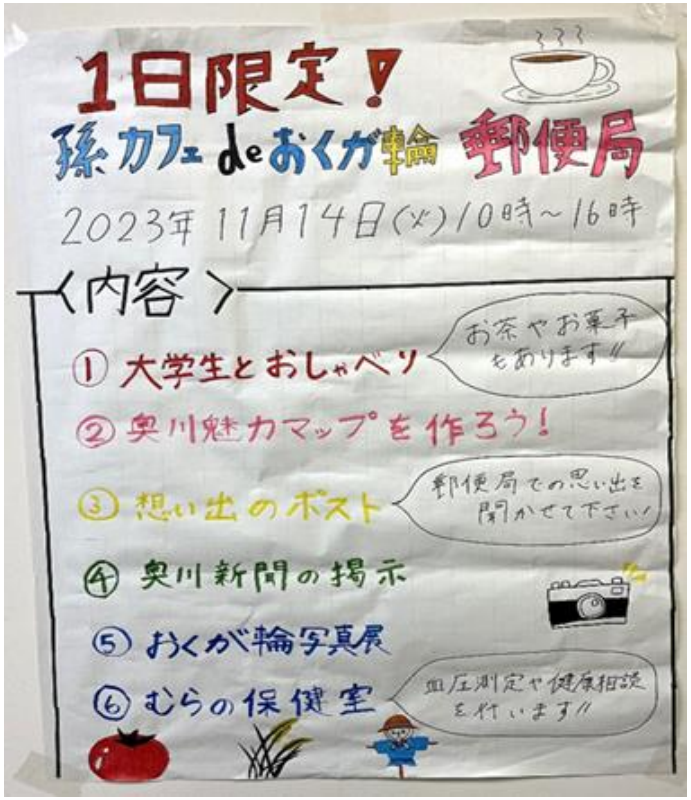


ゼミＯＢの地域おこし協力隊員が考えた奥川人足体験ツアー

大学生の視点を生かした農山村集落活性化と郵便局との連携可能性に関する調査（2021–）

http://www.teishin.or.jp/pdf/research_202203_1.pdf
http://www.teishin.or.jp/pdf/research_202403_2.pdf
（一般社団法人通信研究会ホームページ）

孫カフェdeおくが輪郵便局（2023）



まとめ

- これらの活動を通して、西会津町の地域おこし協力隊員に着任した学生も誕生し（これまでに４名）、大学生や都市住民が集落の共同活動を体験する「人足体験ツアー」を発案するなど、関係人口の創出と拡大に貢献しました。
- また、役場職員として勤務する卒業生や、卒業した後も奥川を訪問して歳の神の行事や雪灯籠づくりなどで懐かしい人々と交流を楽しむゼミＯＢ・ＯＧも多く、未来の地域づくり人材の育成・還流に関わっています。
- 地区では空き家を活用したボランティア拠点「結」を整備するなど、大学生等外部人材がボランティアとして参加できるような集落支援の仕組みが作られました。現在は、首都圏の大学生も数多く奥川地区を訪れ、各々の専門分野を生かした様々な活性化の取り組みが展開されています。
- 人口減少が進む中で、集落を基礎とする地域社会の再生はきわめて重要な課題です。関係人口を含めた新たな地域自治をデザインする上で、大学生一人一人の思いやアクションは大きな意味をもつことから、ゼミとして今後も積極的に関わっていきたいと考えています。

ご清聴ありがとうございました